

月例報告書

国際文化学科 3年

こんにちは。5月も終わりましたね。4月は体感的に長かったもののなんだかんだ5月はあっという間でした。フランスに来て4ヶ月が経ったことにとても驚いています。時間は伸びたり縮んだりするみたいで、毎日が長いようで早いです。

<Calmar et Strasbourg>

5月の頭にアルザス地方に2泊3日で旅行に行きました。木曜日が祝日だったためはさみ連休で金曜日も休み。小さな連休ができたので、どこかに行かないともったいないと思い、一人小旅行を決行しました。ちなみにさみ連休のことフランス語では faire le pont (橋をかける) と言うそうです。

一日目はコルマールに行きました。ここはよく映画の舞台になるような素敵な街。アルザス地方の一部はもともとドイツだったこともあり、ドイツの文化も垣間見えるような面白い街です。有名なのは木組みのおうち。皆さんお馴染み宮崎駿監督の「ハウルの動く城」の舞台もまさにここ。そのような街並みを思い浮かべてもらえば、まさにそのままの世界が広がっています。

私の目的はウンターリンデン美術館。ここにある祭壇画はフランスに来る前から見たいと思っていたもののひとつです。館内は想像以上に広く、作品数も年代も幅広く、多くを集められていて感激しました。こんなにも豊かな作品をゆっくり眺められることほど幸せなことはありません。祭壇画は想像していたよりも大きく、迫力があって、描かれたキリストの物語をしんしんと感じることができました。



ここに来たら食べたいものはもちろんシュークルート。シューケルートとは塩漬けキャベツを乳酸発酵させてつくられている伝統食品で、玉ねぎ、豚バラ肉、ベーコン、ソーセージにブイヨンと白ワインで深みのある味わいに煮込んだ料理です。ビールとの相性が抜群でした。なんてたってビールも美味しい！感動ものです。

二日目はストラスブールに行きました。ストラスブールもアルザスと言えば思い浮かぶ街のひとつです。ドイツの雰囲気はこちらの方が強く感じられました。トランクを使えば、ドイツはすぐそこ。せっかくなので国境とやらに行ってみました。橋を渡ればそこはドイツ。橋の向こう側に見える街はもうフランスではなく、ドイツでした。やっぱり国境は存在するのだと実感させられました。にしてもほほんとした川沿いだったので、カモや白鳥や立派な鳥たちとともに私ものほほんとした時間を送りました。

中心街の街並みはまたコルマールとは少し違う雰囲気を持った場所でした。ストラスブール大聖堂は世界6位の大きさの建築であると聞いていたので、ここは絶対に行ってみよう決めていました。とても立派な建築に圧倒させましたが、大聖堂の前では移動式のオルゴールを演奏する人や変装をして音楽を奏でる人などがいてとても愉快な空間でした。



この日はちょうどマルシェも行われていました。かわいいアシエットに一目ぼれをして2枚買ってしまいました。値切りにチャレンジしようとしましたが、まだまだでした。笑でもいいお土産になりました。

<exchange culture>

テストが終わりお休みだった一週間の間にフランス人の方との文化交流3回を行いました。ディジョンの街を案内してもらい、まだ知らない美術館や川に連れて行ってもらいました。どちらもとても素敵でディジョンの街のいいところをまた発見することができました。ただ街を楽しむだけでなく、フランス語で交流することで新しい表現やお互いの気持ちを伝



えあうことができてとてもいい勉強にもなりました。夜にはバーベキューに誘ってもらい、ご近所さんとともにおうちの庭でバーベキューをしました。学校に居るだけでは出会えないコミュニティに呼んでもらえたことがとても嬉しかったし、自分の語学力を再認識することができたのもとてもよかったです。まだ自分には喋る能力が足りないのでこれからもこのような機会を自分で見つけて積極的に励んでいきたいです。